



氷柱群 (東温市滑川)

🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸 年頭のごあいさつ 🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸

明けましておめでとうございます。令和初めての新春を迎えました。

新しい時代に少し当院の歴史などを振り返ってみます。当院は昭和14年(1939年)に結核治療を目的に開院し、“療養所”あるいは“愛療”と呼ばれてきました。時代とともに病院の役割も変化してきました。結核治療では現在も愛媛県の中心的役割を果たしていますが、病床は20床のみです。病院の主体は160床の重症心身障害病棟と50床の神経難病病棟(一部重症小児)からなる慢性期病床と、救急にも対応する150床の一般急性期病床から構成されています。外来診療科は内科、外科、整形外科です。内科は医師18名で呼吸器内科、循環器内科、消化器糖尿病内科、脳神経内科などの専門医がおり充実しております。外科は医師3名、整形外科も医師3名でさまざまな手術が行える体制です。2016年からは

中予圏域の救急輪番病院に入り、地域救急医療にも貢献しています。

昨年、当院は厚労省から再編統合の検証要請対象の県内6病院の一つとして名前を挙げられました。しかし、これは急性期病床の限られたデータからの判定です。当院の急性期病床は重症心身障害病棟などの特殊な慢性期患者の急変時対応のレベルを維持するためにも必要です。また東温市において、高度専門医療の愛大附属病院はありますが、地域の一般急性期病院としての役割は大きいものと考えています。新しい時代のニーズに応じて病院の機能を変えて地域に役立つ病院であり続けたいと思っています。

本年も宜しくお願い申し上げます。

院長 岩田 猛

チーム心リハ 次なるステップ目指して

当院循環器科は東温地区・松山東部地区の心臓病患者さんだけでなく、愛媛大学医学部附属病院や愛媛県立中央病院から紹介を受けた心臓病手術後の患者さんや重症の心不全患者さんが日常生活を円滑に営めるための心臓リハビリテーションに力を入れています。昨夏、私たち“チーム心リハ”にとって嬉しいニュースがありましたのでご報告します。

毎年開催されている日本心臓リハビリテーション学会学術集会で、土手副看護師長（写真）の発表が優秀演題賞を受賞しました。生涯において継続が推奨されている心臓病患者さんのリハビリ分野において、看護の実践と運動療法の長期継続の関連性をまとめた内容でした。

ここ数年、全国規模で心電図検定試験（1級～4級）が行われています。今年の受検



心電図検定合格者

前列左から：八木看護師 矢野理学療法士
泉循環器内科医師

後列左から：船田循環器内科医長
黒川医化学主任 丸橋理学療法士



賞状を手にする土手副看護師長

者数7,232名からも関心の高さが伺えます。心電図検査は心臓病を診断する上で骨格をなす検査であるため、日頃心電図モニター装着下の心臓病患者さんに運動療法を行っている私たち“チーム心リハ”にとって同検定への受験は必須と考えました。言い出しっぺの筆者も久しぶりに受験生さながらの日常を楽しみました。おかげさまで1級（合格率51%）を受検した泉循環器科医師、黒川生理検査室技師と筆者は皆合格しました。“チーム心リハ”からは八木専従看護師と丸橋・矢野両理学療法士が2級（合格率68%）に合格しました。今回の試みを地道に継続することにより心電図の判読精度や医療レベルの向上を介して心臓リハビリ分野だけでなく地域医療に貢献できればと思っています。

ラグビーワールドカップに熱狂した2019年、大方の予想どおり流行語大賞は“ONE TEAM”に決まりました。私たちも質の高い心臓リハビリテーションの継続と新たな情報発信を目標にチーム一丸となって活動します。2020年版“愛媛医療センター チーム心リハ”のネクスト・ステップにご期待ください。

循環器内科医長 船田 淳一

地域の輪

繋がる地域医療連携



特別養護老人ホームほしのおか



社会福祉法人名石会を2014年に設立し、5年が過ぎました。「名石会(めいしかい)」という名前は、松山市浅海にそびえ立つ名石山が由来です。地域の方々と一緒に歩み、地域に密着したサービスを提供したいとの思いからこの名前を付けました。

当法人では、今治市延喜に「障害者施設 のま(しゅうろう支援B型・生活介護)」、松山市堀江町に「福祉施設 シーサイド堀江(共同生活援助・短期入所)」、松山市星岡に「特別養護老人ホームほしのおか(特別養護老人ホーム・短期入所生活介護・小規模多機能型居宅介護)」の計3施設を開設しております。利用者の意向を尊重して福祉サービスを総合的に提供できるよう創意工夫し、個人

の尊厳を保持しつつ、地域社会生活を共に歩むことができるよう支援することを目的とし運営を行っております。

利用者の皆様には、関係法人の農業部門と連携し、整地した山で車イスのままみかん狩りを楽しんでいただいたり、夏には各施設で夏祭りを開催し地域の方々と交流をしたりと、四季折々の催し物を開催するなどして余暇時間の充実にも注力しています。

歴史が浅い法人ではございますが、地域の方々との交流を大切に、地域と共に歩み信頼されるよう成長していきたいと考えております。これからも、微力ながら地域に貢献してまいりたいと存じますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

施設名：社会福祉法人名石会
特別養護老人ホームほしのおか
特別養護老人ホーム 29名
短期入所生活介護 9名
小規模多機能型居宅介護
(通所14名 宿泊9名)

住 所：松山市星岡1丁目31-7
電 話：089-909-5454
F A X：089-905-3388

医 心 伝 心

上肢のしびれ・疼痛のおはなし

「手がしびれて夜気になって寝られない」など上肢のしびれ・疼痛を訴えて来院する方は少なくありません。脳神経内科など全身疾患関連の原因もありますが、頸椎での圧迫性脊髄症や神経根症、頸椎以遠の末梢神経レベルでの頸肩腕症候群や各種の絞扼性末梢神経障害の頻度は少なくありません。

患者さんの症状に応じて対応していますが、原因を知りたいため来院されているケースが多いです。初診時に診断が確定することもあります。対症的に生活指導や薬剤での経過観察も多いです。お薬や運動の制限をすることもありますが逆に運動や姿勢指導することもあります。神経ブロックや手術が必要なこともあります。

各科のドクターがそれぞれの専門分野から、病気・治療・予防等々フリーテーマで一文をしたためます。

以前に比べて効果のある薬剤も徐々にでてきています。若干副作用もありますので、十分に説明させていただき、使用に関して相談させてください。こういった薬でも良くなると中止が可能な方も多くいますので、気になって困る場合は気軽にご相談ください。

整形外科 曾我部 弘人



最新式 ガンマカメラ ディスカバリー-NM830 導入

この度、令和元年9月24日より核医学診断装置（ガンマカメラ）を更新し、稼動を開始しました。放射線科で行われるX線撮影・CT・MRIなどの検査では主にかたち（形態画像）を診ています。核医学検査では血流や代謝などの人体の機能（機能画像）を観察することに優れています。

核医学検査とはあらかじめ目印をつけておいた薬剤を静脈から注射し、体内を流れたり特定の臓器などに集まる様子を体の外から撮影して体内の動きを画像にする検査です。

撮影された画像から各臓器の血流や働きなどその他の検査ではわからない貴重な情報を得ることができます。

脳の血流を観察できる脳血流シンチでは脳血管障害や認知症の診断に、心筋梗塞などの虚血性心疾患の診断に心筋血流シンチを行っています。その他全身の骨や炎症・腫瘍を対象とした検査などさまざまな部位の検査もあります。

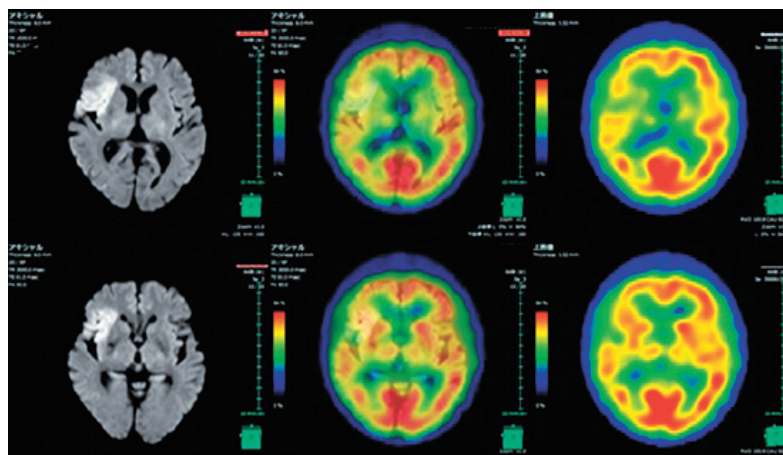
今回更新したガンマカメラには従来の機種にはなかった新しい機能が搭載されており、カメラの回転中にデータ収集することや感度を増したコリメータによりガンマ線を効率的に検出したり、画像処理によって分解能を（画質）を向上させることができるようになりました。これらによって検査時間の短縮が可能となり、診療画像の向上につながります。



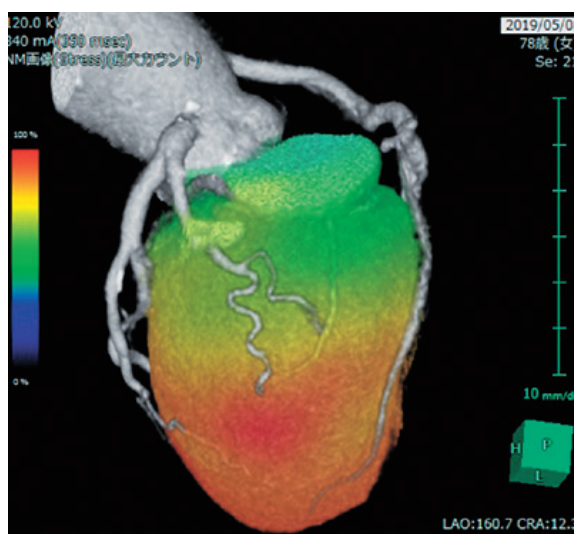
核医学検査に用いられる薬剤（放射性医薬品）には微量の放射能が含まれます。しかし、短い半減期（数時間から数日程度）の薬剤を使用することで放射能は早期に減衰します。また、尿や便によって体外へ放出されるため遅くとも数日後にはほとんど体内に残っていることはありません。また、CTやMRIなどで使用される造影剤などに比べて副作用はほとんどありませんので安心して検査が受けられます。

あまり一般的な検査ではないので内容についてご存じでない方も多くいらっしゃると思います。検査時の被ばくのことや検査の詳細内容については担当技師にお気軽にお尋ねください。

放射線科特殊撮影主任 福岡 宏貴



MRIと脳血流シンチの比較



心筋血流シンチとCTの合成画像

医療安全管理室 だよ こんなことしています

セーフティネット分野における 医療安全相互チェックについて

国立病院機構の病院では、平成25年度より医療安全相互チェックを実施

しています。医療安全相互チェックは、第三者による医療安全対策の現状について評価を受け、優れている点や改善が必要な点について意見交換を行います。そして自病院の問題点は改善し、優れている点や良い取り組みを取り入れることで、医療安全の質の向上を目指すための活動です。

今年度は新たに「セーフティネット分野における医療安全相互チェック」が開始されました。セーフティネット分野とは、国立病院機構が担っている大きな役割である重症心身障害・神経筋難病・精神科医療の3つの分野のことで、当院は神経筋難病分野の徳島病院、高松医療センターと連携しています。

実際11月21日に、当院から医療安全管理室長を含む7名で徳島病院を訪問し、評価させていただきました。徳島病院では、人工呼吸器装着や経管栄養、日常生活に全介助を要するような多くの神経筋難病の患者さんが長期にわたって入院されて

おり、医師・看護師・臨床工学技士・理学療法士等の多職種が協働し、患者さんに安心安全な医療・看護が提供されていました。なかでも骨折防止や経管栄養の誤注入防止の対策等は当院でも参考にさせていただきたい取り組みでした。来年度は当院がセーフティネット分野の訪問、評価を受けます。今後も医療安全相互チェックを継続することで、医療安全の質の向上に努めていきたいと思

います。
医療安全管理係長 佐久間 千代子



四季燦餐 ～れんこんの巻～

明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いたします。

新しい年の幕開けにふさわしいお料理といえば“おせち料理”ですね。

おせち料理の定番となっている食材には、一つひとつ意味が込められているのですが、御存じでしょうか。

今回は、お正月食材の一つでもある「れんこん」についてご紹介したいと思います。

れんこんは、複数の穴が開いていて向こう側が見渡せることから「将来の見通しがきく」という縁起物として用いられています。また、種が多ことから多産を象徴し「子孫繁栄」としての意味も持っているそうです。れんこんの花である蓮の花は、「極楽浄土に最もふさわしい花」とされ、神

聖な植物とされることから、その地下茎であるれんこんも清浄な食物とされ、もとは神様への供物であったおせちに最適とされたそうです。

れんこんには、血圧の上昇を抑え、高血圧の予防にも効果があるカリウム、便秘解消の効果が期待できる食物繊維、疲労回復や感染症予防、皮膚や粘膜に作用し美肌効果にも重要なビタミンCなどさまざまな栄養素が含まれています。通常、ビタミンCは熱に弱いですが、れんこんのビタミンCは、でんぷんに守られているので、加熱しても壊れにくいのが特徴です。

シャキシャキとした食感の酢の物やきんぴら、ほくほくとした食感の煮物、天ぷらなど…メニューの幅も広がります。

煮てよし！炒めてよし！揚げてよし！のれんこんを是非食卓に取り入れてみませんか。



今回の開催地は名古屋。放射線科からは山本副診療放射線技師長と私が参加しました。会場の名古屋国際会議場では、他施設の方々と交流したり、口演発表を聞いたりとおつという間に時間が過ぎ、私の発表の時間が迫ってきました。国病学会での発表は今回で2回目であり、場慣れしていると思っていたのですが、発表の1時間前あたりから次第

に様子がおかしくなり、緊張でガタガタ言っていた私ですが、座長さんのフォローや職場の面々の応援もあり、落ち着いて発表することができました。その甲斐あってか、副技師長と私共々ベストポスター賞を頂くことができました。

発表後は職場のメンバーと夜の名古屋に繰り出しました。院内開催の交流会もいいですが、環境の違う場所での交流はまた格別に楽しかったです！名古屋グルメでらうみゃー！！

今回のテーマである「令和における国立医療の挑戦～明日は変えられる～」。発表するにあたり、数カ月前から発表内容を考え、業務終了後や休日にデータをまとめたり、倫理委員会の申請を行ったりと何かと大変ではありましたが、国立病院機構の職員として国病学会での発表は自分を成長させ、レベルアップする良いきっかけになりました。皆さんも、来年の国病学会の発表に挑戦してみるのはいかがでしょうか？

放射線科 西川 剛史



帰院後受賞ポスターの前で

左から：山本副技師長・大松技師長・西川技師

東温市健康フォーラム2019

令和元年9月29日（日曜日）に健康フォーラム2019に参加しました。このイベントは東温市医師会、東温市歯科医師会、愛媛大学附属病院、東温市、愛媛県病院薬剤師会、松山薬剤師会、愛媛医療センターとの共催で、今年で14年目になります。

今回のテーマは「上手に食べて、噛んで、飲み込もう！」。いつまでも口からおいしく食べて、健康でいようという思いが込められています。当院は「測ってみよう肺年齢・骨密度・腹囲・血圧」「ムセない食事の作り方、食べさせ方」そしてキッズコーナー「お菓子でおくすり作り」のイベントを担当しました。

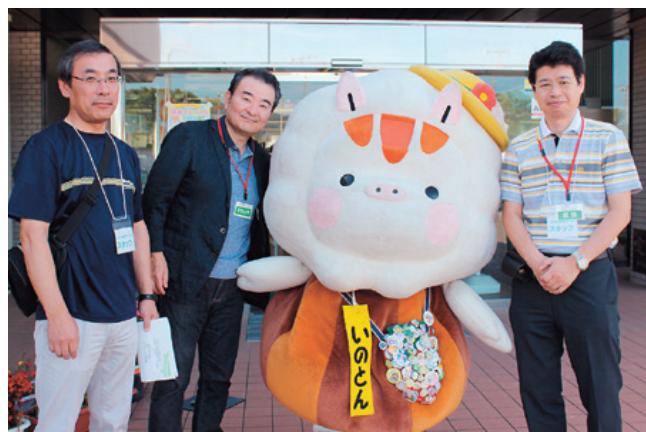
オープニングセレモニーが終わると、早くも「お菓子でおくすり作り」には長蛇の列！毎回大人気です。マールチョコなどお菓子をおくすりに見立て処方し、分包機で一包化します。出来上がったおくすり袋を楽しそうに見ている子どもを見ると私たちも嬉しくなりました。

また、今年のテーマにちなんで企画した「ムセない食事の作り方、食べさせ方」では、当院で提供している嚥下食の展示や食べさせ方のポスター掲示、そしてとろみ茶作りの体験を行いました。麦茶にとろみ剤を入れてとろみ茶を作り、試飲を

していただきました。以前家族にとろみ剤を使用して介護していた方は「こういうものだったんだ」と驚いていました。

どのイベントもたくさんの方に来ていただき、今回は約700名の参加があり、大盛況に終わることができました。来年も地域の皆様に喜んでいただけるイベントを企画したいと思います。

副看護部長 橘 緑里

左から：竹歳事務部長 阿部副院長
いのとん（東温市のゆるキャラ）
久保統括診療部長 会場前にて

看護学校の頁 ～学び舎から～

第十八回 決意式

令和元年12月4日に私たち1年生42名の決意式が行われました。

決意式に向けて、運営や構成など委員を中心にクラス全員で話し合い、協力して準備をすすめました。慣れないことばかりで大変だったこともありましたが、クラスで意見を出し合い、よりよい決意式になるようクラス全員が団結することができました。

一人ひとりナイチンゲールから受け継いだ灯火を、1年生の輝きを表すダイヤの形で表現しました。どうしたらきれいに見せられるか模索しながら、何度も何度も練習を重ねて



いくうちに、クラスが1つにまとまり、当日は今までで1番輝いたダイヤの形を現すことができました。そして、ナイチンゲール誓詞を斉唱したあと、「看護師を目指す者として、責任を持ち、医療チームの一員として、協調性、積極性を身につけ、質の高いケアが提供できるよう努力し続けることを誓います」と私たちの決意の言葉を述べました。

学校長からは、「どんな時もあきらめず、一歩一歩前に進んでいってください」と激励のお言葉をいただきました。

家族や看護師長、先輩、先生方などお祝いしてくださったたくさんの方々への感謝の気持ちを忘れず、これから始まる実習に向けて期待に応え成長する努力をしたいです。これからは、今日誓った看護師への決意を胸に、クラス全員で支え合いながら、一人ひとりが理想とする看護師に近づけるよう日々歩いていきたいと思ひます。

決意式委員 野中美咲 山本玲奈 二神海里
仙波 舞 多々良夢佳 柄崎実奈子

ちよいと言ひ放し

愛媛医療センターニュース編集委員の持ち回りでお届けします。

紅葉もそろそろ見納めだと思い、紅葉を探した東温市の河之内地区まで自転車で出かけました。目的地は「白猪の滝」です。

出かけたときはまだ温度が低かったのですが、この日は快晴で太陽が上るにつれて暑くなってきました。この時期はあまり着こむと暑くなりすぎるので、着るものに悩みます。

途中、「雨滝」にはじめて立ち寄りしました。紅葉のピークは少し過ぎていたように思いましたが、まだまだきれいです。滝の高低差はあまりありませんが、水がきれいで落ち着く風景です。

「白猪の滝」の遊歩道入口にある駐車場に到着すると、ここから滝まで一十分程歩きます。このあたりでは残念ながら紅葉はほぼ終わっているようです。もう少し早く来るべきでした。帰りに立ち寄った金毘羅寺の境内では紅葉の見頃を迎えており、多くの人がカメラを構えていました。

これまでは、双海やしまなみ海道など海岸線に出かけることが多かったのですが、最近では東温市で出かけることが増えました。重信川上流の山の内地区にある「旧酒樽村」や弊紙「石鎚」の表紙写真で紹介されたこともある「川筋の大イチョウ」、今回の「白猪の滝」など、住んでいるところから片道一時間程度あれば行くことができる範囲なので、気軽に出かけられます。

ただ、山間地区が多いので坂道は避けられません。坂道を好んで(喜んで)走る人のことを「坂バカ」と呼びますが、私自身は「坂は少ないに越したことはない」と思うレベルなので、坂道が多いと苦行にしか感じられません。でも、普段見られない景色を見るためなら坂道も仕方ないと思うようになってきていて、まだまだ「坂が好き」ではありませんが、徐々にその道に足を突っ込みかかっているのかもしれないです。

東温市は広く、行ったことがない場所が多いので、これからの寒い季節にも負けずにぼちぼち出かけたいと思います。

たわし



外来診療担当医表

内科外来直通電話 089-990-1834
外科外来直通電話 089-990-1835

診療科	診察室	午前・午後	月	火	水	木	金
循環器内科	6診	午前	船田	船田	泉	岩田	関谷
		午後		岩田			
	11診	午前					
		午後			船田		
	12診	午前					
		午後			泉		
消化器内科	9診	午前	古田	山内(一)	久保	山内(一) (糖尿病専門)	久保
		午後					
	12診	午前			廣岡	大藏	
		午後					
呼吸器内科	10診	午前	阿部	伊東	佐藤	阿部	伊東
		午後					
	11診	午前		渡邊		仙波	山本
		午後					
脳神経内科	12診	午前	小原	尾原			戸井
		午後				小原	
整形外科	15診	午前	宮本			宮本	担当医(初診のみ)
		午後					
	16診	午前	相澤		相澤		
		午後					
リハビリテーション科	15診	午前		曾我部	曾我部		
		午後					
外科	14診	午前					
		午後		石丸			
消化器外科	14診	午前		鈴木	森本	渡部(第3週)	
		午後					
呼吸器外科	14診	午前					湯汲
		午後				佐野(第4週14時30分~)	
小児科(神経外来)	14診	午前					
		午後	菊池		濱田		菊池

専門外来(予約制)		月	火	水	木	金
心臓外科外来	14診				泉谷(隔週)	
ペースメーカー外来	6診				第2・4(午後)	
糖尿病外来	11診					神崎(月1回)
フットケア外来	8診				毎週	
スキンケア外来	救外		第1・3(午前)			
ペインクリニック	11診			山内(康)(午前)		
じん肺外来	14診					西村(第1・3午前)
アスベスト外来	11診		午後		午後	
息切れ外来	11診	渡邊(13時30分~)				
SAS外来	11診					渡邊(14時~16時)
頭痛外来	13診				永井(第2・4午前)	
神経難病	13診			橋本		

※外来受付は8時30分から12時までです。内科は13時から16時までです。(紹介状のない初診の受付は15時までです) 2020年1月1日現在
ただし、土・日・祝祭日・年末年始(12月29日~1月3日)は休診です。
※SAS(睡眠時無呼吸症候群)

独立行政法人国立病院機構 愛媛医療センター

〒791-0281 愛媛県東温市横河原366 TEL 089-964-2411 FAX 089-964-0251
ホームページアドレス <https://ehime.hosp.go.jp>

※弊紙の基本方針として、掲載写真については原則ご本人様の了解を頂いております。

※弊紙へのご意見ご要望ご感想は、当センター内病院新聞編集委員会(担当:小倉)までお寄せください。